

幸福駅 再会は11月上旬 きょうから改築工事

「愛の国から幸福へ」のキャッチフレーズで有名になった北海道帯広市の旧国鉄広尾線・幸福駅の駅舎が、老朽化のために2日から改築工事に入る。1日には全国からカップルらが訪れ、11月上旬の工事終了までしばしの別れを惜しんだ。

幸福駅は1973年にNHKのテレビ番組で紹介されたことをきっかけにブレイク。広尾線は87年に廃線となったが、木造駅舎はその後も残って、カップルたちが訪れている。駅舎の内壁や天井には「出会えて感謝」などと書かれた恋人たちのメッセージや名刺などが貼られ、2008年には静岡市のNPO法人から「恋人の聖地」として認定された。

1日に恋人と駅舎を訪れた北海道富良野市の公務員、長土居智直さん(28)は「10月には結婚式を挙げるので、改築後にまた来たい」と話していた。

改築は帯広市の事業として行われる。古い駅舎の木材を再利用し、メッセージなどは取り外されるものの、改築前の雰囲気は残す方向という。駅舎前で土産物店を営む広岡勲さん(75)は「新駅舎も訪れた人を幸せにできるようにしてくれれば」と話していた。



◀ 各地から訪れた人たちでにぎわう幸福駅(1日、北海道帯広市で)＝原中直樹撮影